龍谷大大宮キャンパス　平安京左京七条二坊五町-東市跡- 発掘調査

発掘調査現地説明会　2016.10.16.

七條大路に面した鎌倉時代の商業職人町の家並み　奥には鍛冶工房跡も出土

発掘調査地全景　南東から　2016.7.20.撮影

発掘調査現場展示パネルより

平安京東市跡の鎌倉時代の町屋から鍛冶工房が出土した
龍谷大学大宮キャンバス 発掘調査現場見学　20106.9.16.

龍谷大大宮キャンパスから 七條大路に面した鎌倉時代の商業職人町の家並み出土　奥には鍛冶工房跡

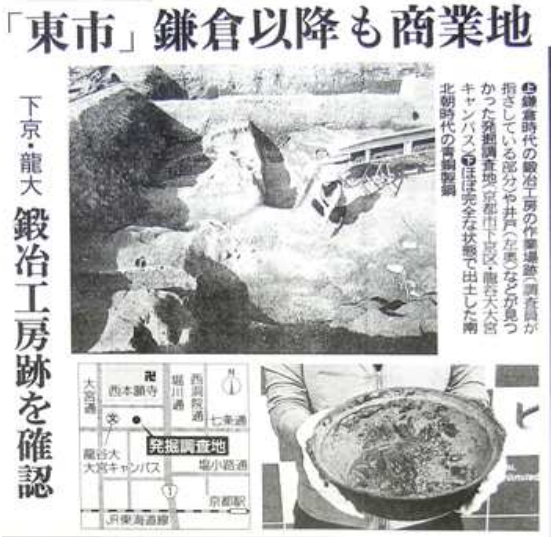
平安京「東市」は鎌倉以降も商業地　京都市・龍谷大、鍛冶工房跡を確認

京都新聞 10月14日(金)9時0分配信

鎌倉時代の鍛冶工房の作業場跡（調査員が指さしている部分）や井戸（左奥）などが見つかった発掘調査地（京都市下京区・龍谷大大宮キャンパス）

龍谷大は13日、京都市下京区の大宮キャンパスの発掘調査で、鎌倉時代の鍛冶工房を備えた町家の遺構が見つかったと発表した。
調査地は平安京の公営市場「東市」の一画。　東市は11世紀までに廃れたとみられるが、鎌倉時代以降も商業地として栄えていたことを示す成果として注目される。
調査地は、平安京の七条大路に当たる七条通の北側で、通りに近い南側で鎌倉～室町時代前期の直径20センチほどの柱跡約50カ所や井戸を確認。北側で炭や鉄くぎ、砥石（といし）などを発見した。
通りに面して小規模の建物が密集して並び、裏手に鉄の鍛冶工房があったとみられる。
東市が廃れて以降、商工業の中心はJR京都駅北側の「八条院町」など東に移ったと考えられていた。
室町後半の町家に付随したとみられる地下式倉庫跡もあり、
同志社大の鋤柄俊夫教授（考古学）は「東市跡の調査事例は少ない。七条大路に沿って中世の繁華街が広がっていたと確認できる貴重な発見」と話す。

また室町前期の穴から、青銅製鍋（直径23センチ）もほぼ完全な状態で見つかった。
調査した龍谷大の國下多美樹教授（考古学）は「この時期の保存状態が良い青銅製鍋の出土は全国的に珍しい。当時は貴重品で、有力者が祭事を行った可能性もある」と指摘する。16日午前11時～午後3時、現地説明会を開く。
問い合わせは龍谷大大宮キャンパスTEL075（343）3311。



「東市」鎌倉以降も商業地

下京・龍大　鍛冶工房跡を確認

❺鎌倉時代の鍛冶工房の作業場跡（調査員が指さしている部分）や井戸（左奥）などが見つかった発掘調査地（京都市下京区・龍谷大大宮キャンパス）❻ほぼ完全な状態で出土した南北朝時代の青銅製鍋

10月16日朝　インターネットニュースをチェックしていて、
「平安京の「東市」の跡地より、七條大路にそう鎌倉時代の家並みが出土し、その裏庭には鍛冶工房があった　」
との記事を見つけた。
常々　王城の地　京都の市街地からも鍛冶工房が出土しないのを不思議に思っていた。　場所はよく知る西本願寺の南隣　七條通りに面した龍谷大大宮キャンパス。
午後　現地説明会があると知って、中世の街並の中にある鍛冶工房に興味津々で出かけました。

龍谷大大宮キャンパス 発掘調査現場パネルに掲示されていた 10.14.付け 新聞のニュース速報

龍谷大大宮キャンパス
南北朝時代の青銅製鍋出土

龍谷大は13日、大宮キャンパス（京都市下京区）にある平安京の東市跡の発掘調査で、14世紀後半ごろの南北朝時代の青銅製鍋（口径23・3㌢、深さ8㌢）が出土したと発表した。この青銅製鍋は発掘時に鍋底が壊れたものの、ほぼ完全な形で出土した極めて珍しい例という。

発掘調査は龍谷大の校舎建て替え工事に伴い、6月から実施。東市跡約600平方㍍を調べた。

青銅製鍋は南北朝時代の地層から出土。当時の有力者が、食事用ではなく仏事や儀礼に使用した可能性があるという。また、近くでは、南北朝～室町時代前半のものとみられる土師器の小皿が大量に廃棄されていたのが見つかったほか、13世紀ごろの鎌倉時代の地層では鉄の鋳造を行う遺構跡などが確認された。

龍谷大の国下多美樹教授（考古学）は「中世の七条大路（現・七条通）沿いは鉄を使った商工業の中心地として栄えたことが、一層明確になった」と話している。

現地説明会は16日午前11時～午後3時。問い合わせは、龍谷大大宮キャンパス（☎075・343・3311）。

ほぼ完全な形で出土した青銅製鍋＝京都市下京区

土師器の小皿が大量に廃棄された場所＝京都市下京区

座経 10/14 朝刊

「東市」鎌倉以降も商業地
下京・龍大 鍛冶工房跡を確認

龍谷大は13日、京都市下京区の大宮キャンパスの発掘調査で、鎌倉時代の鍛冶工房を備えた町家の遺構が見つかったと発表した。調査地は平安京の公営市場「東市」の一画。東市は11世紀までに廃れたとみられるが、鎌倉時代以降も商業地として栄えていたことを示す成果として注目される。

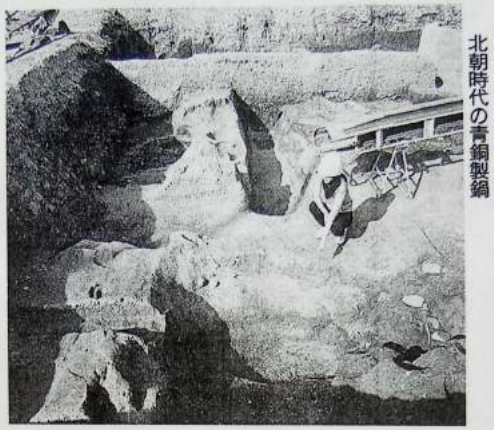
調査地は、平安京の七条大路に当たる七条通の北側で、通りに近い南側で鎌倉～室町時代前期の直径20㌢ほどの柱跡約50カ所や井戸を確認。北側で炭や鉄くず、砥石などを発見した。通りに面して小規模の建物が密集して並び、裏手に鉄の鍛冶工房があったとみられる。

東市が廃れて以降、商業の中心はJR京都駅北側の「八条院町」など東に移ったと考えられていた。室町後半の町家に付随したとみられる地下式倉庫跡もあり、同志社大の鋤柄俊夫教授（考古学）は「東市跡の調査事例は少ない。七条大路に沿って中世の繁華街が広がっていたと確認できる貴重な発見」と話す。

また室町前期の穴から、青銅製鍋（直径23㌢）もほぼ完全な状態で見つかった。調査した龍谷大の國下多美樹教授（考古学）は「この時期の保存状態が良い青銅製鍋の出土は全国的に珍しい。当時は貴重品で、有力者が祭事を行った可能性もある」と指摘する。

16日午前11時～午後3時、現地説明会を開く。問い合わせは龍谷大大宮キャンパス☎075（343）3311。

京都 10/14（岩田恭彦）2016


上 鎌倉時代の鍛冶工房の作業場跡（調査員が指さしている部分）や井戸（左奥）などが見つかった発掘調査地（京都市下京区・龍谷大大宮キャンパス） 下 ほぼ完全な状態で出土した南北朝時代の青銅製鍋

発掘調査地全景 南東から 2016.7.20.撮影

龍谷大学大宮キャンパス本部前　発掘調査現場　2016.10.16.

西本願寺が広く北西の一角全体を占める堀川七条の交差点　2016.10.16.

この交差点を西に約200mほど行けば、目指す龍谷大学大宮キャンパスである
なお、今南西角に見えている山門は親鸞ゆかりの興正寺
その後ろ全体が西本願寺である

七條通り　美観地区の案内板がある角を北へ曲がると道の両側に
龍谷大学の大宮キャンパス　奥には本願寺の国宝「唐門」がある　2016.10.16.

西本願寺大玄関門

国宝唐門の後ろに御影堂の大屋根が見える

龍谷大学大宮キャンパス 正門前　2016.10.16.

左に大宮キャンパス正門　奥に西本願寺の建物が見えている. 右に発掘調査現場がある

通りの西側は龍谷大学大宮キャンパス本部正門前　中の建物は重文の素晴らしい本部の建物がちらっと

通りの東側　建物が取り壊され、今回の龍谷大大宮キャンパス発掘調査が進む場所

今回現地説明会がある鎌倉時代の鍛冶工房がある家並が出土した
龍谷大学大宮キャンパス発掘調査現場　2016.10.16.
奥に京都駅前のタワーが見えている

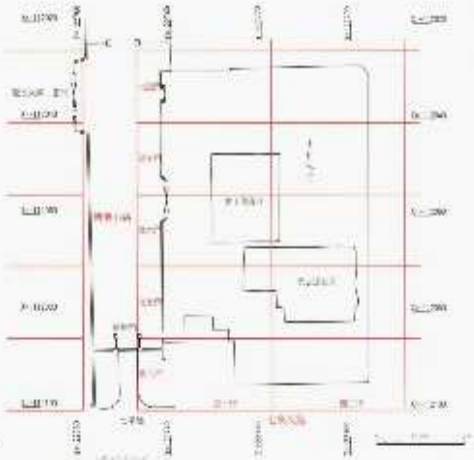
今回現地説明会がある鎌倉時代の鍛冶工房がある家並が出土した
龍谷大学大宮キャンパス発掘調査現場　2016.10.16.

入口で今日の現地説明会の資料をもらって　発掘現場に入る　2016.10.14.
発掘現場かなり深く、床面は鎌倉～平安時代に掘り下げられ、数多くの土坑が見える
鍛冶工房跡は? とみるのですがよくわからず。資料図と照らし合わせながら、遺跡の中を歩く

平安京左京七条二坊五町—東市跡—の調査

調査地の位置と過去の主要な調査

調査地は、七条大路に面する左京七条二坊五町西部に位置します。あわせて、周辺の過去の調査を示しました。調査年度は四所の数字で表示しました。

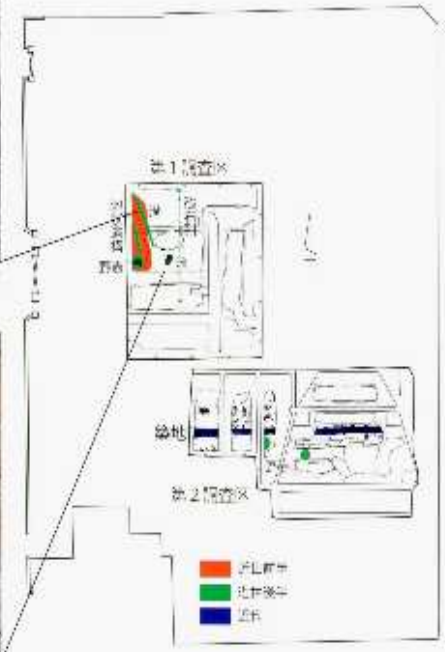


平安京の四行八門制における位置関係図

四行八門制は、約120m四方の広さをもつ宅地を東西に4分割、南北に8分割する平安時代の町割りです。今回の調査区は、西一・二行、北五・六門に位置することがわかります。

近世前半の池状遺構の互接象　池状遺構の底面には大量の近世陶が出土しました。近世下層陶器に係わる資料です。

近世後半の漆喰池　漆喰でヒョウタン形に仕上げた池状遺構。内部に漆喰の剥離から金魚飼育の池と推定されます。



近世～近代の平安道構間隔図（1/500）

第1調査区全景（中世、南から、2016年[illegible]）
一方鳥石上の石蓋を大型相は西木町の[illegible]

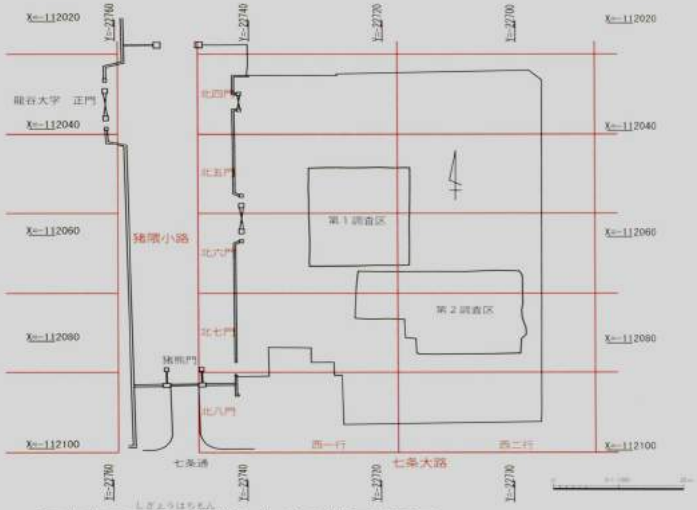
平安京左京七条二坊五町—東市跡—の調査（[illegible]）
所在地：京都市下京区[illegible]東入西八百屋町地内（龍谷大学大宮キャンパス内）　調査面積：598㎡
発行：龍谷大学東[illegible]に伴う埋蔵文化財調査委員会　京都市下京区大宮[illegible]東入る大工町125－1（龍谷大学文学部）

龍谷大学大宮キャンパス　平安京左京七条二坊五町-東市跡-　現地説明会資料【1】　2016. 10. 16.

この写真は第一調査区全景(中世、南から、2016.9.2.撮影)　写真右上
瓦葺の大屋根は西本願寺御影堂-阿弥陀堂

調査地の位置と過去の主要な調査

調査地は、七条大路に面する左京七条二坊五町南西部に位置します。あわせて、周辺の過去の調査を示しました。調査年度は四桁の数字で表示しました。



平安京の四行八門制における位置関係図

四行八門制は、約 120m 四方の広さをもつ宅地を東西に 4 分割、南北に 8 分割する平安時代の町割りです。今回の調査区は、西一・二行、北五・六門に位置することがわかります。

龍谷大学大宮キャンパス　平安京左京七条二坊五町-東市跡-　現地説明会資料【2】発掘調査概要　内容の配置等整理して転載

発掘調査の成果

★成果のポイント

①七条大路に面する中世町家の解明

鎌倉時代の鍛冶工房と建物跡、南北朝～室町時代前半の地盤改良跡、区画溝、土坑等、室町時代後半の地下式倉庫跡と井戸などが確認されました。中世の七条市町は、八条院町とともに手工業者が集住し、鉄を中心とする生産活動を行う商工業の中心地として栄えたことが一層明確になりました。

②完全な形で南北朝時代の青銅製の鍋が出土

南北朝時代の土坑（大きな穴）から出土しました。鉄製鍋を模倣したもので、精巧なつくりです。遺跡から完形品の出土は極めて珍しい例です。有力者が仏事や儀礼に使用した可能性があります。

③近世初頭以降の下間家邸宅の実態解明

当地は、天正 19 年（1591）の本願寺の当地移転以来、坊官である下間家の邸宅になりました。その一画に池や瓦葺き建物が存在したことが明らかになりました。

＜平安時代の遺構と遺物＞

第２調査区で、平安時代前期の土坑を確認しました。東市に関係するものと推定されます。

＜鎌倉時代～南北朝・室町時代の遺構と遺物＞

鎌倉時代は、不整形土坑６基（土坑１・２・17～20・24）、井戸９、溝 15、柱穴他を確認しました。土坑１・２からは、炭や焼土とともに鉄釘、鉄滓、砥石が出土するので、鉄を素材とする小型品の鋳造を行う小鍛冶に関連する遺構と推定されます。井戸 16 は相当規模の縦板組井戸です。

南北朝～室町時代前半では、第１調査区で青銅鍋を伴う土坑 10、区画溝 12 ～ 14、布掘り礎石列 12、多量の土器が廃棄された土坑６、第２調査区では、河原石を使った南北方向の地盤改良跡 21、素掘りの南北溝 15、土坑 22 などがあります。

室町時代後半では、地下式倉庫４・５、井戸７・８、土坑３を確認しました。

中世の遺構は、表側にあたる七条大路に面して建物が建てられ、裏手にあたる北側には鉄の鋳造工房やごみ捨て穴が設けられていたことを示します。

また、当時貴重であった青銅製鍋の出土は、当地に商工業者とともに有力者が係わったことを示します。なお、この時代の遺物には、土師器、須恵器、国産陶器、輸入陶磁器、銭貨、木製品とともに、青銅製品、鉄製品、鉄滓、ふいご羽口、石製品などがあります。

＜近世～近代の遺構と遺物＞

近世～近代では、第１調査区で池状遺構、溝、礎石建物、塀跡、道路状遺構を確認しました。特に、西端で確認した池状遺構は、本願寺が当地に置かれた安土・桃山時代に造られたことがわかり、多量の近世前半期の瓦や土器が出土しました。第２調査区では、近世末～近代の土塀跡を確認しました。これらの遺構は、本願寺の坊官である下間家の邸宅にかかわる資料と推定されます。

＜他の時代の遺構と遺物＞

後世の遺構から、弥生時代中期初頭の弥生土器、古墳時代初頭の土師器が出土しています。当地における最初の開発を示す資料でしょう。なお、最下層で扇状地堆積を示す砂礫層を確認しました。

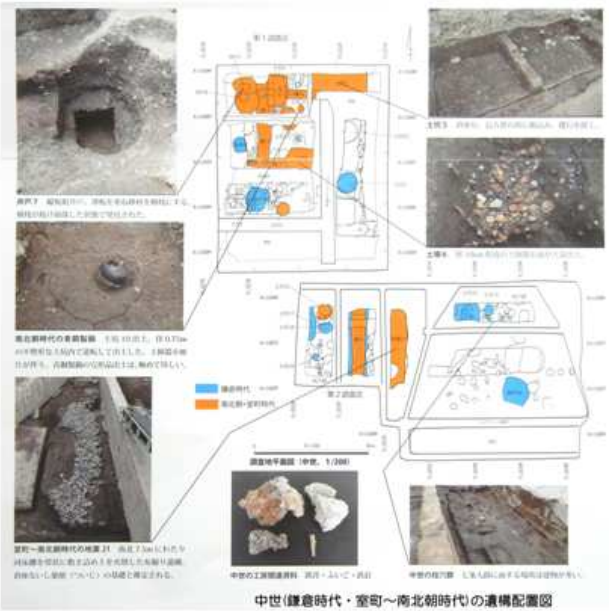
■近世～近代の主要遺構
西本願寺がこの地に創建され、西本願寺の坊官であった下間家邸宅に係わる遺構が出土

近世前半の池状遺構の瓦投棄　池状遺構の底面には大量の近世瓦が出土しました。近世下間屋敷に係わる資料です。

近世後半の漆喰池　漆喰でヒョウタン形に仕上げた池状遺構。市内公家屋敷の御間から金魚飼育の池と推定されます。

近世～近代の主要遺構配置図

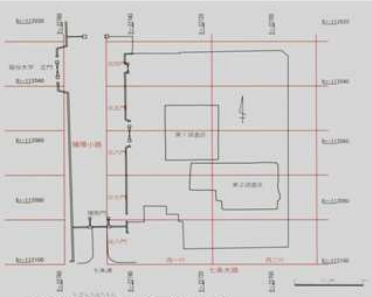
■中世の主要遺構
平安京 東市跡の地 七条大路に面する中世の京町屋の家並 鎌倉時代の鍛冶工房と推定される建物跡と裏庭土坑群や井戸遺構　まだ室町～南北朝時代の土坑・溝・地盤改良跡の遺構や完形青銅鍋などが出土



中世(鎌倉時代・室町～南北朝時代)の遺構配置図

調査地の位置と過去の主要な調査

調査地は、七条大路に面する左京七条二坊五町南西部に位置します。あわせて、周辺の過去の調査を示しました。調査年度は四桁の数字で表示しました。


平安京の四行八門制における位置関係図

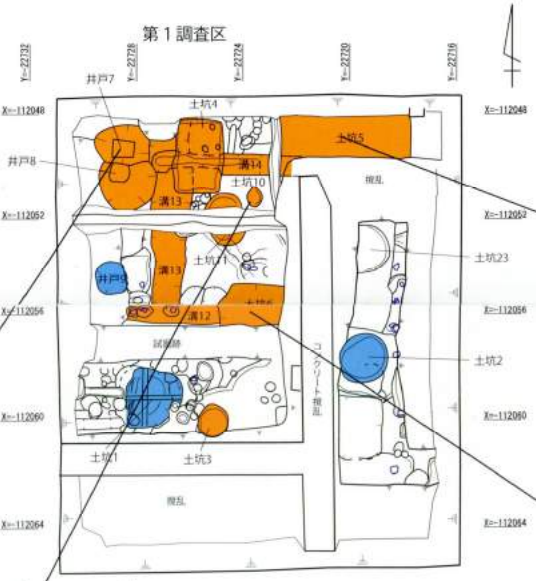
四行八門制は、約 120m 四方の広さをもつ宅地を東西に４分割、南北に８分割する平安時代の町割りです。今回の調査区は、西一・二行、北五・六門に位置することがわかります。

龍谷大学大宮キャンパス　平安京左京七条二坊五町-東市跡-　現地説明会資料【3】　中世の主要遺構配置図

井戸7　縦板組井戸。薄板を重ね棒材を横桟にする。横桟が抜け崩落した状態で発見された。

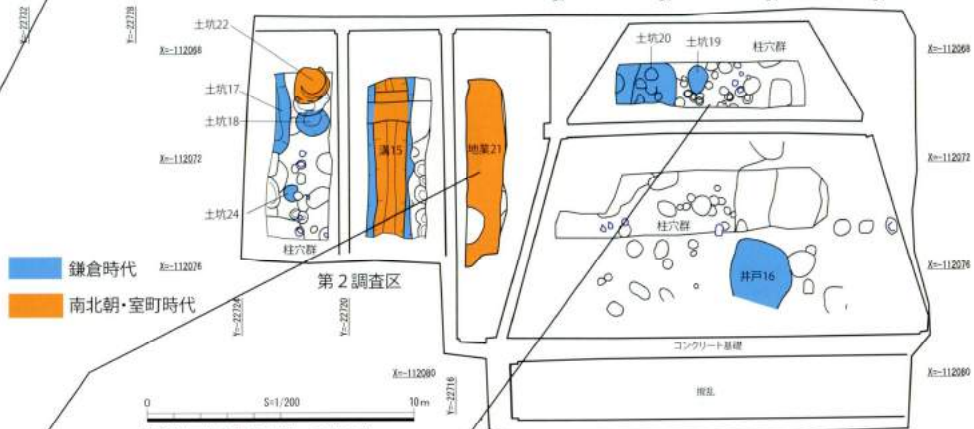
南北朝時代の青銅製鍋　土坑10出土。径0.75mの不整形な土坑内で逆転して出土した。土師器小皿片が伴う。青銅製鍋の完形品出土は、極めて珍しい。

室町～南北朝時代の地業21　南北7.5mにわたり河床礫を帯状に敷き詰め土を充填した布掘り遺構。倉庫ないし築地（ついじ）の基礎と推定される。



土坑５　倉庫か。長方形の形に掘込み、礎石を置く。

土壙６　径10cm程度の土師器小皿が大量出土。



調査地平面図（中世、１/200）

中世の工房関連資料　鉄滓・ふいご・鉄釘

中世の柱穴群　七条大路に面する場所は建物が多い。

第一調査区

多数の土坑と井戸が出土している部分で　町屋の裏中庭と考えられ、ここから鍛冶具や鉄滓・鞴羽口片などが出土し、簡単な鍛冶工房小屋もあったと推定されている。

第二調査区

七条通りに面した町屋が建っていた部分で　きれいに丸く掘られた町屋の柱穴が多数みつかっている。　ほかに井戸や土坑もみつかっている。

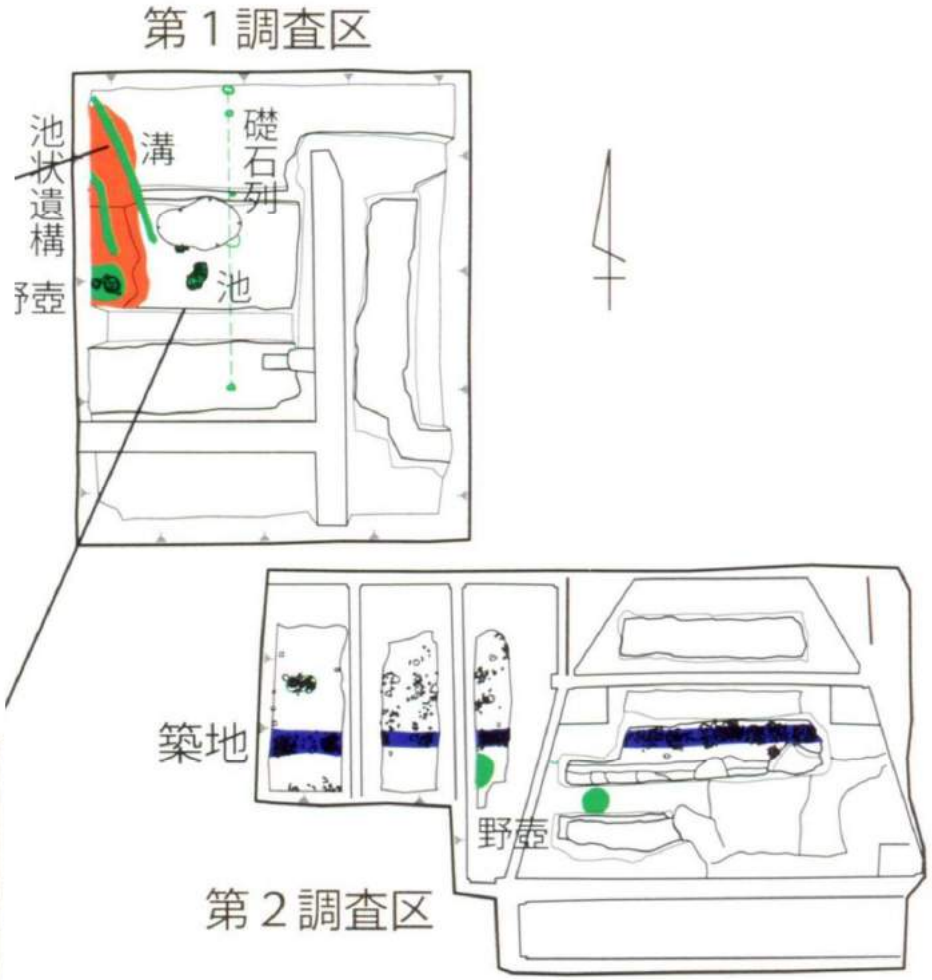
平安から中世にかけての　典型的な表に町屋　裏に　土坑や作業小屋のある　　京町屋の家並みがあった　とみられ、平安時代栄えた東市の跡地が鎌倉時代　　中心が東に移ってからも　引き続き商業地として街並みが維持されていたとの　知見が新たに得られたと　考えている。

また、一遍上人絵伝にもこの東市跡地周辺の繁栄ぶりが描かれている

(調査した龍谷大の國下多美樹教授（考古学）龍谷大学)現地説明会の説明より)

近世前半の池状遺構の瓦投棄　池状遺構の底面には大量の近世瓦が出土しました。近世下間(しもつま)屋敷に係わる資料です。

近世後半の漆喰池　漆喰でヒョウタン形に仕上げた池状遺構。市内公家屋敷の類例から金魚飼育の池と推定されます。



近世前半
近世後半
近代

近世～近代の主要遺構配置図

龍谷大学大宮キャンパス　平安京左京七条二坊五町-東市跡-　現地説明会資料【5】発掘調査概要付記　*by Mutsu Nakanishi*

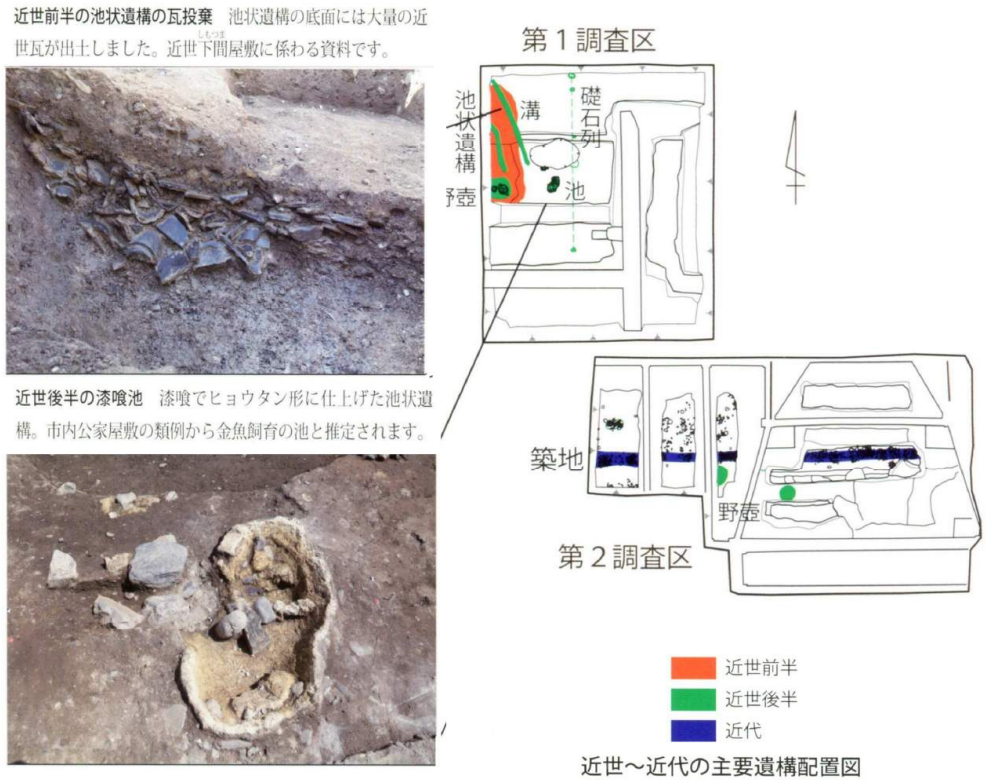
かつて繁栄を極めた平安京東市跡　その後の実態がよくわからなかったが、鎌倉時代も　引き続き　鍛冶工房など手工業者たちの家並が建ち並び、繁栄していたことが浮かびあ゛ってきた。　また、通りに面して家　その裏庭に土坑や倉庫・工房・作業小屋が建つ京町屋の様子もわかってきた。
なお　発掘調査された町屋の鍛冶工房については　土坑からの炭・焼土・鉄滓・羽口片・鉄釘などが見つかってはいるが、鍛冶炉跡が出土していないこと鍛冶工房を特徴図ける出土品量が少ないことから、推定はされても確認はまだ　検討が必要。
資料にある鋳造工房というには　余りにも時期尚早であろう。　**2016.10.16.　by　Mutsu Nakanishi**

■近世～近代の主要遺構

西本願寺がこの地に創建され、西本願寺の坊官であった下間家邸宅に係わる遺構が出土

■中世の主要遺構

平安京 東市跡の地 七条大路に面する中世の京町屋の家並
鎌倉時代の鍛冶工房と推定される建物跡と裏庭土坑群や井戸遺構　また室町～南北朝時代の土坑・溝・地盤改良跡の遺構や完形青銅鍋などが出土

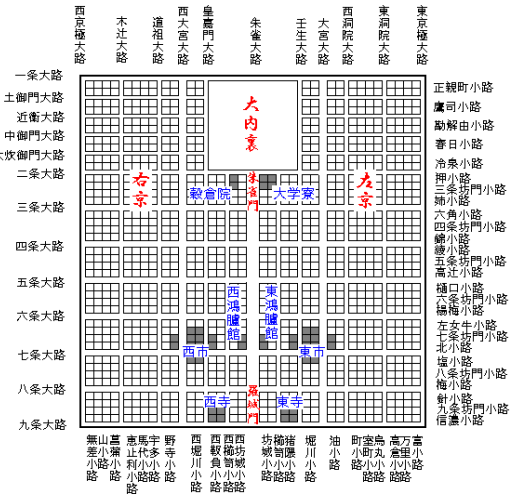


近世～近代の主要遺構配置図

中世(鎌倉時代・室町～南北朝時代)の遺構配置図

國下多美樹教授（考古学）龍谷大学)現説で教えてもらった 平安京 東市跡 の賑わい　鎌倉時代に描かれた一遍上人絵伝より

鎌倉時代の一遍上人絵伝に描かれている かつての平安京東市界隈の図　一遍上人が通りに道場を建てて、念仏踊りをする様子が描かれ、鎌倉時代にもこの地域が繁栄していたことがわかる絵図



平安京以降　度重なる戦火に見舞われ、京の街の中心は東へ移った。
平安京の東市も衰退したとみられていたが、商業地としての街並みは残っていた。

龍谷大 大宮キャンパス　平安京 東市跡　出土遺物　　2016.10.16.　現説で

鍛冶工房を思わせる
鍛冶関係の出土遺物
瓦器 壺
土師器 ミニチュア壺
土師器 皿
瓦器 皿
砥石
鉄滓
フイゴ

龍谷大学
完形出土した南北朝時代の
青銅製の鍋

龍谷大 大宮キャンパス　平安京 東市跡　出土遺物　　2016.10.16.　現説で

龍谷大 大宮キャンパス 平安京 東市跡 出土遺物 2016.10.16. 現説で

北側より調査区1.　通りの町屋に付随する裏庭部

正面奥が南　調査区2　の町屋部で　その向こうを左から右　東西に七条通りが走っている

北東側より調査域の全景

手前が調査区1　町屋裏庭部　　奥が調査区2　通りに面した町屋部　2016.10.16.

発掘調査が進み、現在現れている床面は中世である。

また、調査区1･2　の中央部等　前建物のコンクリート製角配管基礎が南北･東西クロスして通っている。

通りの町屋に付随する裏庭部　調査区1.　西側縁中央より東
右奥が通りに面した町屋部　調査区2である

北西角より　通りの町屋に付随する裏庭部　調査区1.

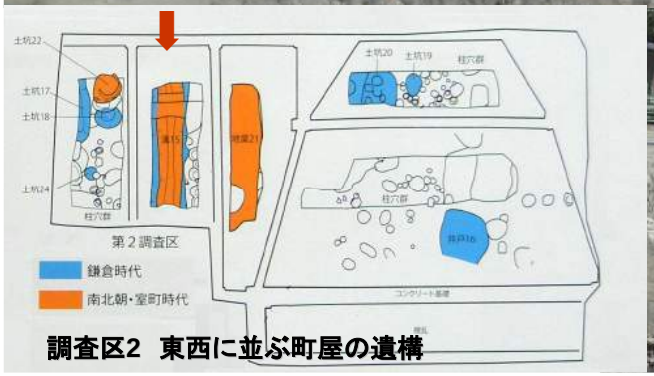
調査区1　町屋裏庭部　南西角より北東

西側中央より　調査区全景　　左:調査区1　町屋裏庭部　右:調査区2　南の通りに面する町屋部

正面奥に東隣にある興正寺の大屋根が見えている

調査区2　東西に並ぶ町屋の遺構　　東縁より
土坑や井戸とともに　町屋の柱穴が多数みられる
土坑22
土坑17
土坑18
土坑24
柱穴群
土坑20
土坑19
柱穴群
第2調査区
鎌倉時代
南北朝・室町時代
調査区2　東西に並ぶ町屋の遺構

東西に並ぶ町屋の調査区2の南部分南西端
右二つのコンクリート壁の中は
南北朝～室町の溝と倉庫または築地のあった部分
左端のコンクリート壁内は奥に土坑群
その手前 に丸くきれいに掘られた町屋の柱穴群が見えている
この柱穴群は奥に見える同じ調査区2の柱穴群とつながっている
るとみえ、ここを東西に家並が連なっていたと思われる



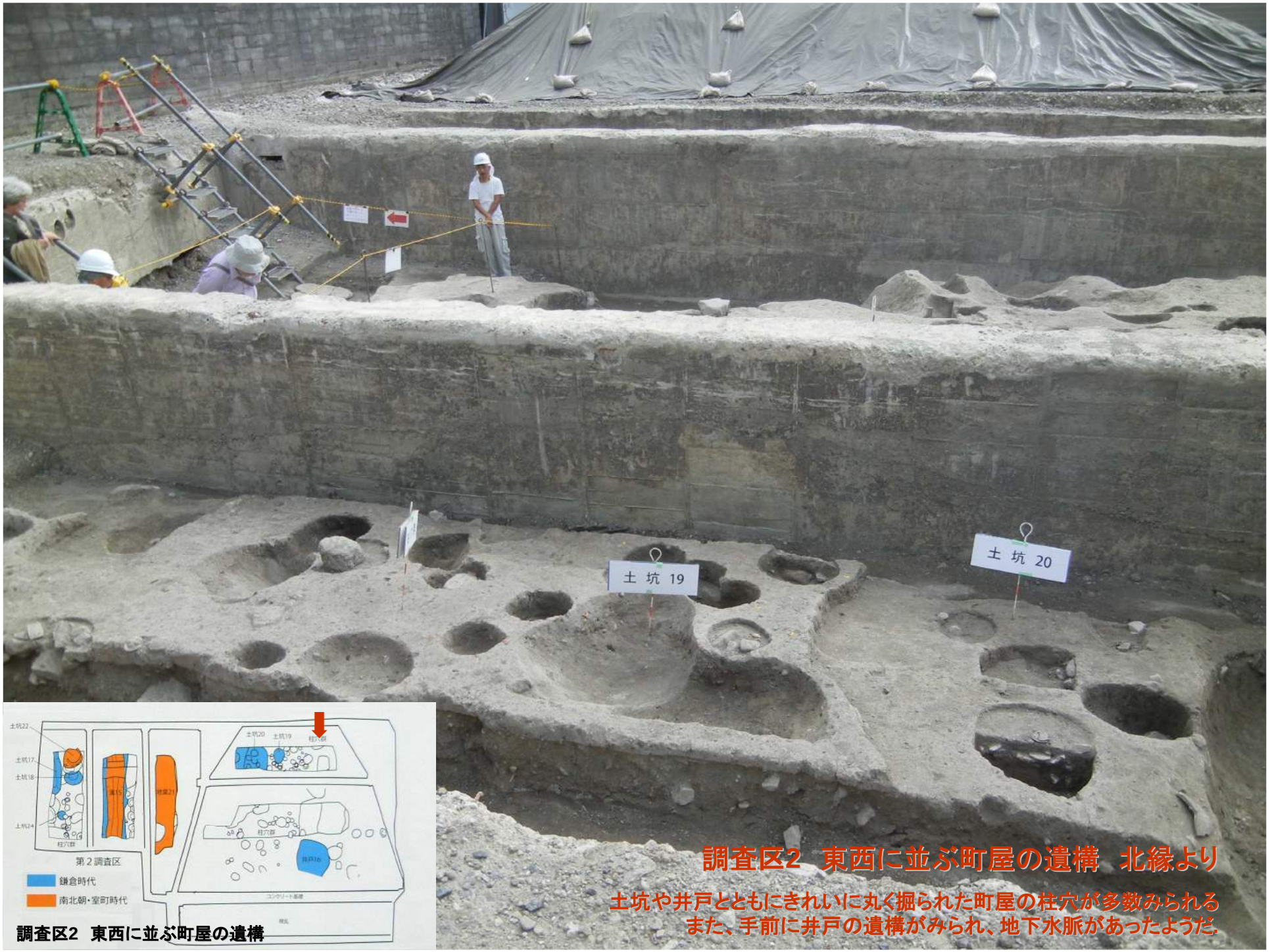
調査区2　東西に並ぶ町屋の遺構

東西に並ぶ町屋の調査区2の南部分全景　西より

調査区2　東西に並ぶ町屋の遺構

調査区2　東西に並ぶ町屋の遺構　　東縁より

土坑や井戸とともに丸くきれいに掘られた町屋の柱穴が多数みられる
また、手前に井戸の遺構がみられ、地下水脈があったようだ



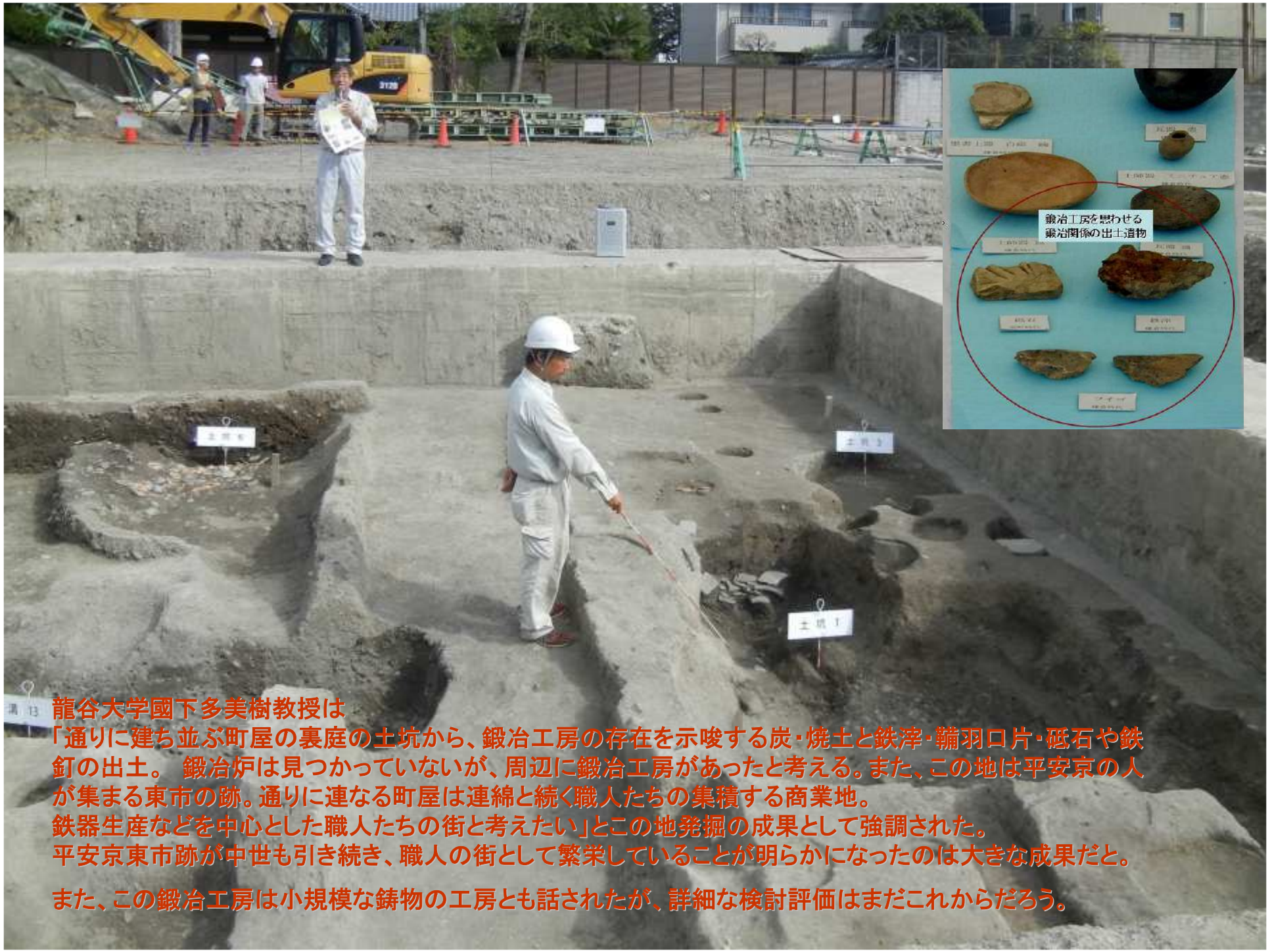
調査区2　東西に並ぶ町屋の遺構

調査区2　東西に並ぶ町屋の遺構　北縁より

土坑や井戸とともにきれいに丸く掘られた町屋の柱穴が多数みられる
また、手前に井戸の遺構がみられ、地下水脈があったようだ.

13:30より　発掘調査の責任者である龍谷大学國下多美樹教授による現地説明が始まった

鉄滓や羽口片・砥石など鍛冶関係遺物が出土した調査区1の土坑1・2



龍谷大学國下多美樹教授は
「通りに建ち並ぶ町屋の裏庭の土坑から、鍛冶工房の存在を示唆する炭・焼土と鉄滓・鞴羽口片・砥石や鉄釘の出土。 鍛冶炉は見つかっていないが、周辺に鍛冶工房があったと考える。また、この地は平安京の人が集まる東市の跡。通りに連なる町屋は連綿と続く職人たちの集積する商業地。
鉄器生産などを中心とした職人たちの街と考えたい」とこの地発掘の成果として強調された。
平安京東市跡が中世も引き続き、職人の街として繁栄していることが明らかになったのは大きな成果だと。

また、この鍛冶工房は小規模な鋳物の工房とも話されたが、詳細な検討評価はまだこれからだろう。

調査区2. 南の通りに面した町屋が並ぶ町屋表部分

北側 町屋の裏庭部
土坑・作業小屋など

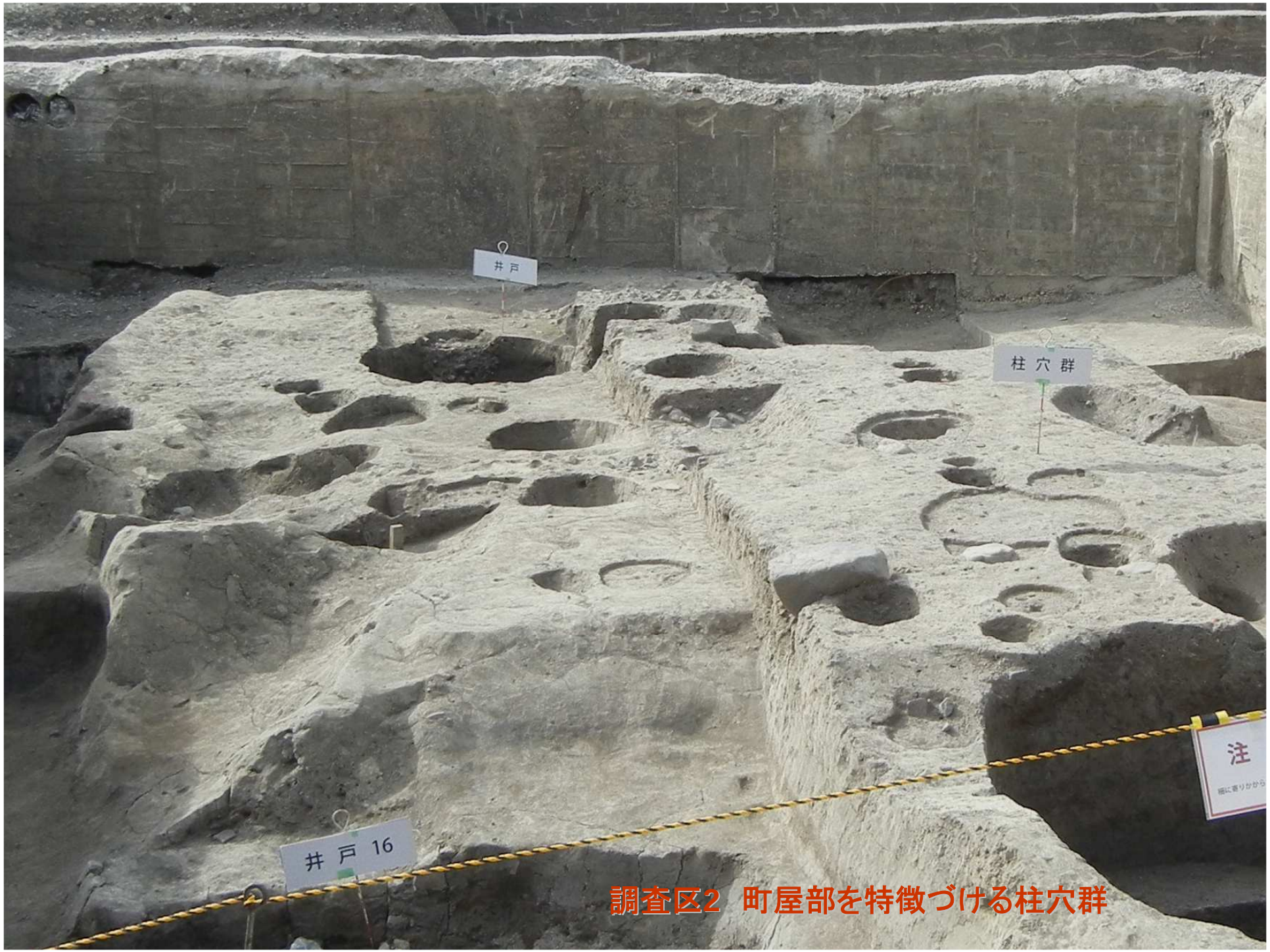
南 表通りに面して町屋が建ち並ぶ

調査区2. 南の通りに面した町屋が並ぶ町屋表部分

写真左側が南で表通りに面していて、右手に調査区2の北側裏庭につづいている
調査区1と異なりきれいに丸く掘られた柱穴が密集して見つかり、中世の京町屋の特徴をよく示している。 また、町屋の横には水脈に沿って井戸が掘られていました。

調査区2　町屋部を特徴づける柱穴群
町屋の横　水脈に沿って井戸が掘られている

調査区2．南の通りに面した町屋が並ぶ町屋表部分
調査区1と異なりきれいに丸く掘られた柱穴が密集して見つかり、
中世の京町屋の特徴をよく示している



調査区2　町屋部を特徴づける柱穴群

丸くきれいに掘り下げられた柱穴群
● 石の入っていない柱穴　掘っ立て柱建物
● 根固めの根石の入っているもの

基本的には掘っ立て柱建物の町屋が
道に面して建ち連なっている。
これが中世の京町屋の特徴

経済拠点が東に移ってゆく中で
職人の街として繁栄を続けている。

調査区1.　多数の土坑が掘られているは京町屋の裏庭

建ち並ぶ町屋の裏の庭にはしっかりした建物はなく、水脈に沿って掘られた井戸と大量の土坑。 平安時代から、通りに面した町屋の裏には裏庭があり、そこには裏方を担う簡易な作業場　そして廃棄物処理の土坑が大量に掘られている。これが平安から続く中世京町屋の姿と聞きました。
街中での廃棄物の処理は今も昔も大変だったようだ。

現地説明会資料

2016年（平成28）10月16日（日）

龍谷大学大宮キャンパス東門建替えに伴う埋蔵文化財発掘調査

平安京左京七条二坊五町—東市跡—の調査

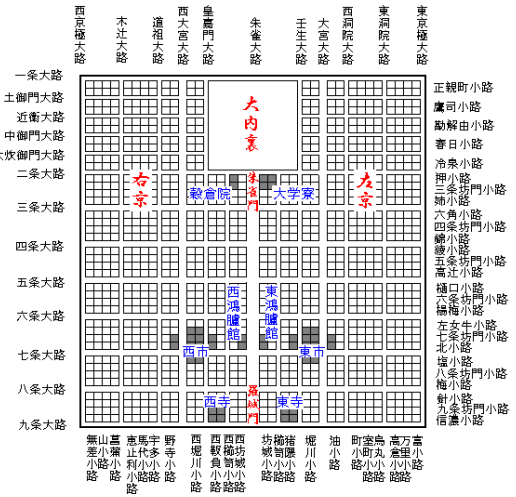
第1調査区全景（中世、南から、2016年9月2日撮影）

～写真右上の瓦葺き大屋根は西本願寺御影堂・阿弥陀堂～

13:30より、発掘調査の責任者である龍谷大学國下多美樹教授による現地説明が始まった

國下多美樹教授（考古学）龍谷大学)現説で教えてもらった 平安京 東市跡 の賑わい　鎌倉時代に描かれた一遍上人絵伝より

鎌倉時代の一遍上人絵伝に描かれている かつての平安京東市界隈の図　一遍上人が通りに道場を建てて、念仏踊りをする様子が描かれ、鎌倉時代にもこの地域が繁栄していたことがわかる絵図



平安京以降　度重なる戦火に見舞われ、京の街の中心は東へ移った。
平安京の東市も衰退したとみられていたが、商業地としての街並みは残っていた。

龍谷大大宮キャンパス　平安京左京七条二坊五町-東市跡- 発掘調査

発掘調査現地説明会　2016.10.16.

七條大路に面した鎌倉時代の商業職人町の家並み　奥には鍛冶工房跡も出土

2016.8.16.　京都龍谷大学大宮キャンパス　平安京東市跡地の発掘調査で
「中世職人町の家並みとともに鍛冶工房跡が出土した」と聞いて、
京都市街地からの鍛冶工房に興味津々。
発掘現場の見学並びに開催された現地説明会に参加

初めて知る中世の町屋がつつく家並み　町屋の裏のごみ処理の土坑群にびっくり。
町屋裏庭の土坑から鍛冶関連遺物の出土により、鍛冶工房の存在が推察されるが、
鍛冶炉跡は不明であり、生産された製品もよくわからず、さらなる検討が必要に思えた。でも　初めて見る京都市街地での鍛冶工房の可能性に満足。

ずぐ向かいの重文の龍谷大本部や国宝西本願寺唐門を見学
西本願寺の境内　御影堂・阿弥陀堂にもお参りして帰ってきました。

発掘調査地全景　南東から　2016.7.20.撮影

発掘調査現場展示パネルより

龍谷大大宮キャンパス　平安京左京七条二坊五町-東市跡- 発掘調査

発掘調査現地説明会　2016.10.16.

七條大路に面した鎌倉時代の商業職人町の家並み　奥には鍛冶工房跡も出土

発掘調査地全景　南東から　2016.7.20.撮影

発掘調査現場展示パネルより

おまけ　龍谷大学大宮キャンパス・西本願寺界隈　　2016.10.16.

西本願寺大玄関門

国宝唐門の後ろに御影堂の大屋根が見える

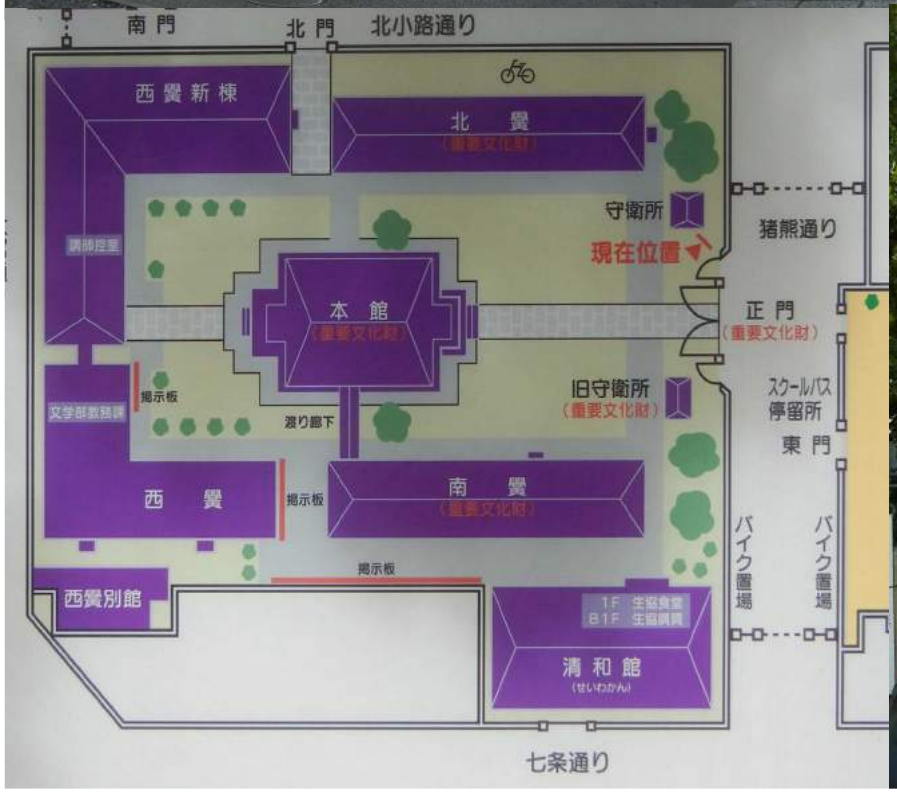
龍谷大学大宮キャンパス 正門前　2016.10.16.

左に大宮キャンパス正門　奥に西本願寺の建物が見えている　右に発掘調査現場がある

重要文化財の美しい明治の洋館が建ち並ぶ　龍谷大学大宮キャンパス正門前　2016.9.16.

正門・正門左にある旧守衛所　正面に見える本館とその両側にある南・北学舎などが国の重要文化財

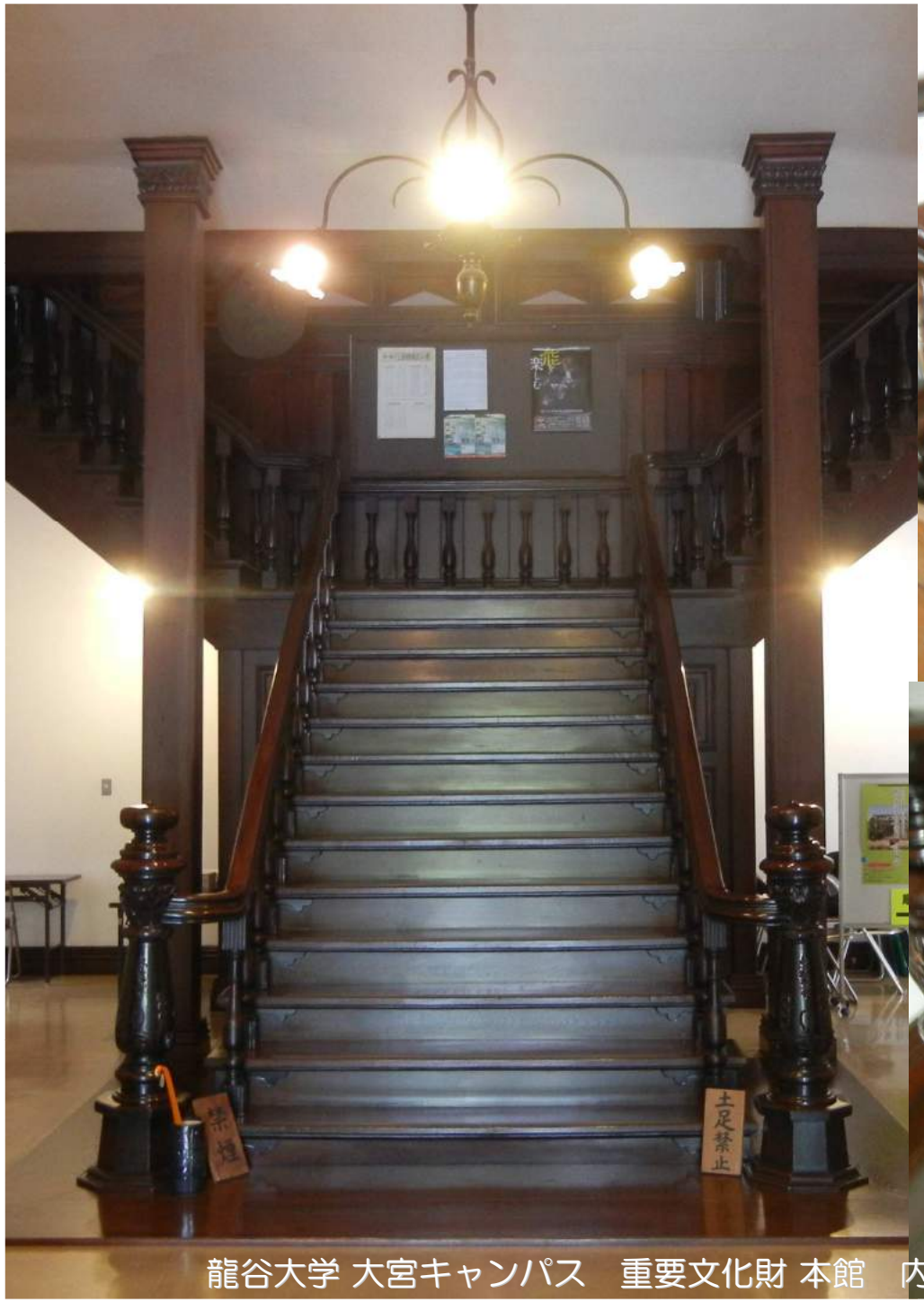
重要文化財　龍谷大学大宮キャンパス本館と左右の学舎



重要文化財　龍谷大学大宮キャンパス正門

大宮キャンパス内　左: 南学舎　右:本館　2016.10.16.

龍谷大学　大宮キャンパス　重要文化財　本館　2016.10.16.



龍谷大学 大宮キャンパス　重要文化財 本館　内部階段 〈1〉 2016.10.16.

龍谷大学 大宮キャンパス　重要文化財 本館　内部階段 〈2〉 2016.10.16.

大宮キャンパス本館入口より
正門を眺める　2016.10.16.

大宮キャンパス内から正門　左手の煉瓦建物が重文の旧守衛所　　2016.10.16.

龍谷大学　大宮キャンパス　　2016.10.16.

西本願寺大玄関門

国宝唐門の後ろに御影堂の大屋根が見える

龍谷大学大宮キャンパス 正門前　2016.10.16.

左に大宮キャンパス正門　奥に西本願寺の建物が見えている　右に発掘調査現場がある

国宝　西本願寺　唐門(日暮門)　　2016.10.16.

見上げるとすぐ上に2頭の麒麟　そのほか虎と豹、唐獅子、孔雀、鶴など
極彩色で装飾された動物が彫刻されている。

国宝　西本願寺　唐門(日暮門)　　2016.10.16.

見上げるとすぐ上に2頭の麒麟　そのほか虎と豹、唐獅子、孔雀、鶴など
極彩色で装飾された動物が彫刻されている。

御影堂門
総門
西本願寺
東本願寺
龍谷大
大宮キャンパス
★発掘調査現場
(平安京東市跡)
七条通
堀川通
京都タワー
京都駅

堀川通を挟んで向う東側にある西本願寺　総門　　仏壇通りへの入口と思っていましたが・・・・・

西本願寺境内への入口にある御影堂門

堀川通を挟んで向う東側　西本願寺
総門　かつては堀川通も西本願寺の境。

西本願寺　御影堂の正面に位置する御影堂門　　2016.9.16.

北の阿弥陀堂の正面にも阿弥陀堂門がある

西本願寺　御影堂　2016.10.16.

西本願寺　鐘楼と飛雲閣　2016.10.16.

総門から堀川通ごしに御影堂門　西本願寺境内を眺める

こう眺めるのが、本当なのでしょう。　落ち着きます。　仏壇通り前はよく通過するのですが、ついぞ歩いたことなし。　久しぶりに　ここを通って　京都駅へ帰る　　2016.10.16.

西本願寺　門前　仏壇通り　　2016. 10. 16.

西本願寺　門前　仏壇通り　　2016. 10. 16.

西本願寺　門前　仏壇通り　　2016. 10. 16.

平安京東市跡の鎌倉時代の町屋から鍛冶工房が出土した
龍谷大学大宮キャンバス 発掘調査現場見学　20106.9.16.

龍谷大大宮キャンパス 発掘調査現場パネルに掲示されていた 10.14.付け 新聞のニュース速報

龍谷大大宮キャンパス
南北朝時代の青銅製鍋出土

龍谷大は13日、大宮キャンパス（京都市下京区）にある平安京の東市跡の発掘調査で、14世紀後半ごろの南北朝時代の青銅製鍋（口径23・3㌢、深さ8㌢）が出土したと発表した。この青銅製鍋は発掘時に鍋底が壊れたものの、ほぼ完全な形で出土した極めて珍しい例という。

発掘調査は龍谷大の校舎建て替え工事に伴い、6月から実施。東市跡約600平方㍍を調べた。

青銅製鍋は南北朝時代の地層から出土。当時の有力者が、食事用ではなく仏事や儀礼に使用した可能性があるという。また、近くでは、南北朝～室町時代前半のものとみられる土師器の小皿が大量に廃棄されていたのが見つかったほか、13世紀ごろの鎌倉時代の地層では鉄の鋳造を行う遺構跡などが確認された。

龍谷大の国下多美樹教授（考古学）は「中世の七条大路（現・七条通）沿いは鉄を使った商工業の中心地として栄えたことが、一層明確になった」と話している。

現地説明会は16日午前11時～午後3時。問い合わせは、龍谷大大宮キャンパス（☎075・343・3311）。

ほぼ完全な形で出土した青銅製鍋＝京都市下京区

土師器の小皿が大量に廃棄された場所＝京都市下京区

座経 10/14 朝刊

「東市」鎌倉以降も商業地
下京・龍大 鍛冶工房跡を確認

龍谷大は13日、京都市下京区の大宮キャンパスの発掘調査で、鎌倉時代の鍛冶工房を備えた町家の遺構が見つかったと発表した。調査地は平安京の公営市場「東市」の一画。東市は11世紀までに廃れたとみられるが、鎌倉時代以降も商業地として栄えていたことを示す成果として注目される。

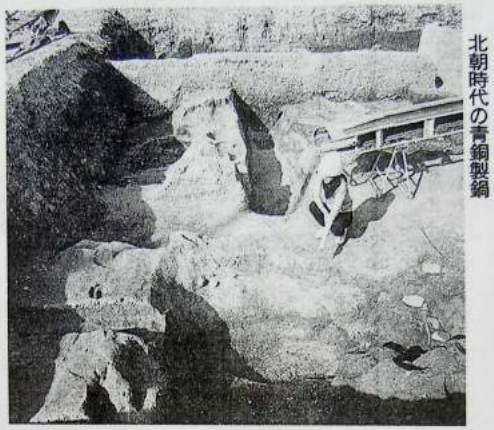
調査地は、平安京の七条大路に当たる七条通の北側で、通りに近い南側で鎌倉～室町時代前期の直径20㌢ほどの柱跡約50カ所や井戸を確認。北側で炭や鉄くず、砥石などを発見した。通りに面して小規模の建物が密集して並び、裏手に鉄の鍛冶工房があったとみられる。

東市が廃れて以降、商業の中心はJR京都駅北側の「八条院町」など東に移ったと考えられていた。室町後半の町家に付随したとみられる地下式倉庫跡もあり、同志社大の鋤柄俊夫教授（考古学）は「東市跡の調査事例は少ない。七条大路に沿って中世の繁華街が広がっていたと確認できる貴重な発見」と話す。

また室町前期の穴から、青銅製鍋（直径23㌢）もほぼ完全な状態で見つかった。調査した龍谷大の國下多美樹教授（考古学）は「この時期の保存状態が良い青銅製鍋の出土は全国的に珍しい。当時は貴重品で、有力者が祭事を行った可能性もある」と指摘する。

16日午前11時～午後3時、現地説明会を開く。問い合わせは龍谷大大宮キャンパス☎075（343）3311。

京都 10/14（岩田恭彦）2016


上 鎌倉時代の鍛冶工房の作業場跡（調査員が指さしている部分）や井戸（左奥）などが見つかった発掘調査地（京都市下京区・龍谷大大宮キャンパス） 下 ほぼ完全な状態で出土した南北朝時代の青銅製鍋

発掘調査地全景 南東から 2016.7.20.撮影

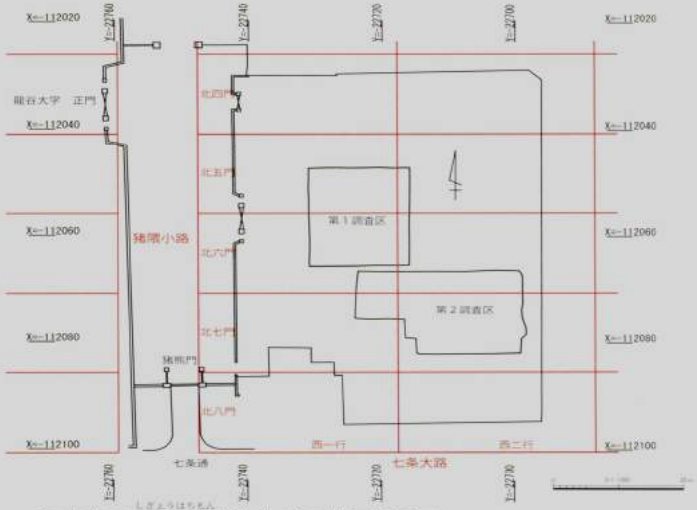
龍谷大学大宮キャンパス本部前　発掘調査現場　2016.10.16.

龍谷大学大宮キャンパス　平安京左京七条二坊五町-東市跡-　現地説明会資料【1】　2016. 10. 16.

この写真は第一調査区全景(中世、南から、2016.9.2.撮影)　写真右上
瓦葺の大屋根は西本願寺御影堂-阿弥陀堂

調査地の位置と過去の主要な調査

調査地は、七条大路に面する左京七条二坊五町南西部に位置します。あわせて、周辺の過去の調査を示しました。調査年度は四桁の数字で表示しました。



平安京の四行八門制における位置関係図

四行八門制は、約 120m 四方の広さをもつ宅地を東西に 4 分割、南北に 8 分割する平安時代の町割りです。今回の調査区は、西一・二行、北五・六門に位置することがわかります。

龍谷大学大宮キャンパス　平安京左京七条二坊五町-東市跡-　現地説明会資料【2】発掘調査概要　内容の配置等整理して転載

発掘調査の成果

★成果のポイント

①七条大路に面する中世町家の解明

鎌倉時代の鍛冶工房と建物跡、南北朝～室町時代前半の地盤改良跡、区画溝、土坑等、室町時代後半の地下式倉庫跡と井戸などが確認されました。中世の七条市町は、八条院町とともに手工業者が集住し、鉄を中心とする生産活動を行う商工業の中心地として栄えたことが一層明確になりました。

②完全な形で南北朝時代の青銅製の鍋が出土

南北朝時代の土坑（大きな穴）から出土しました。鉄製鍋を模倣したもので、精巧なつくりです。遺跡から完形品の出土は極めて珍しい例です。有力者が仏事や儀礼に使用した可能性があります。

③近世初頭以降の下間家邸宅の実態解明

当地は、天正 19 年（1591）の本願寺の当地移転以来、坊官である下間家の邸宅になりました。その一画に池や瓦葺き建物が存在したことが明らかになりました。

＜平安時代の遺構と遺物＞

第２調査区で、平安時代前期の土坑を確認しました。東市に関係するものと推定されます。

＜鎌倉時代～南北朝・室町時代の遺構と遺物＞

鎌倉時代は、不整形土坑６基（土坑１・２・17～20・24）、井戸９、溝 15、柱穴他を確認しました。土坑１・２からは、炭や焼土とともに鉄釘、鉄滓、砥石が出土するので、鉄を素材とする小型品の鋳造を行う小鍛冶に関連する遺構と推定されます。井戸 16 は相当規模の縦板組井戸です。

南北朝～室町時代前半では、第１調査区で青銅鍋を伴う土坑 10、区画溝 12 ～ 14、布掘り礎石列 12、多量の土器が廃棄された土坑６、第２調査区では、河原石を使った南北方向の地盤改良跡 21、素掘りの南北溝 15、土坑 22 などがあります。

室町時代後半では、地下式倉庫４・５、井戸７・８、土坑３を確認しました。

中世の遺構は、表側にあたる七条大路に面して建物が建てられ、裏手にあたる北側には鉄の鋳造工房やごみ捨て穴が設けられていたことを示します。

また、当時貴重であった青銅製鍋の出土は、当地に商工業者とともに有力者が係わったことを示します。なお、この時代の遺物には、土師器、須恵器、国産陶器、輸入陶磁器、銭貨、木製品とともに、青銅製品、鉄製品、鉄滓、ふいご羽口、石製品などがあります。

＜近世～近代の遺構と遺物＞

近世～近代では、第１調査区で池状遺構、溝、礎石建物、塀跡、道路状遺構を確認しました。特に、西端で確認した池状遺構は、本願寺が当地に置かれた安土・桃山時代に造られたことがわかり、多量の近世前半期の瓦や土器が出土しました。第２調査区では、近世末～近代の土塀跡を確認しました。これらの遺構は、本願寺の坊官である下間家の邸宅にかかわる資料と推定されます。

＜他の時代の遺構と遺物＞

後世の遺構から、弥生時代中期初頭の弥生土器、古墳時代初頭の土師器が出土しています。当地における最初の開発を示す資料でしょう。なお、最下層で扇状地堆積を示す砂礫層を確認しました。

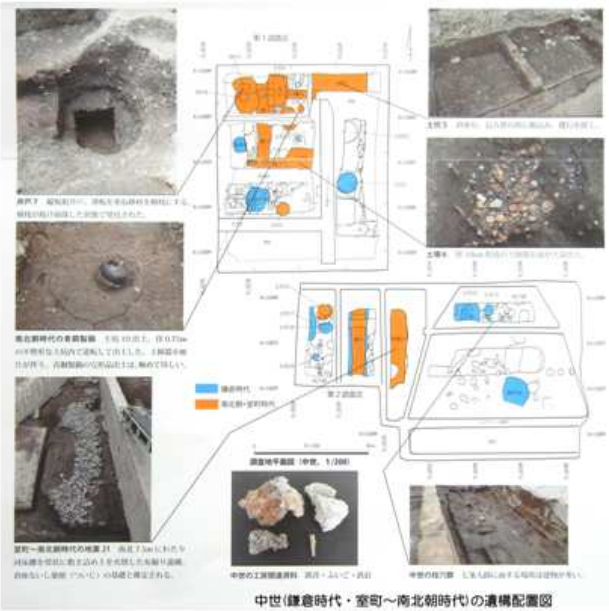
■近世～近代の主要遺構
西本願寺がこの地に創建され、西本願寺の坊官であった下間家邸宅に係わる遺構が出土

近世前半の池状遺構の瓦投棄　池状遺構の底面には大量の近世瓦が出土しました。近世下間屋敷に係わる資料です。

近世後半の漆喰池　漆喰でヒョウタン形に仕上げた池状遺構。市内公家屋敷の御間から金魚飼育の池と推定されます。

近世～近代の主要遺構配置図

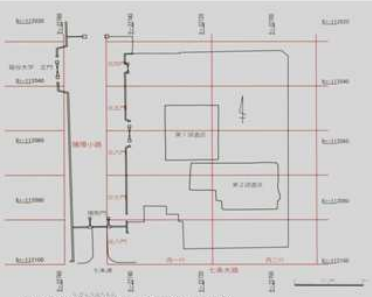
■中世の主要遺構
平安京 東市跡の地 七条大路に面する中世の京町屋の家並 鎌倉時代の鍛冶工房と推定される建物跡と裏庭土坑群や井戸遺構　まだ室町～南北朝時代の土坑・溝・地盤改良跡の遺構や完形青銅鍋などが出土



中世(鎌倉時代・室町～南北朝時代)の遺構配置図

調査地の位置と過去の主要な調査

調査地は、七条大路に面する左京七条二坊五町南西部に位置します。あわせて、周辺の過去の調査を示しました。調査年度は四桁の数字で表示しました。


平安京の四行八門制における位置関係図

四行八門制は、約 120m 四方の広さをもつ宅地を東西に４分割、南北に８分割する平安時代の町割りです。今回の調査区は、西一・二行、北五・六門に位置することがわかります。

龍谷大大宮キャンパス　平安京左京七条二坊五町-東市跡- 発掘調査

発掘調査現地説明会　2016.10.16.

七條大路に面した鎌倉時代の商業職人町の家並み　奥には鍛冶工房跡も出土

2016.8.16.　京都龍谷大学大宮キャンパス　平安京東市跡地の発掘調査で
「中世職人町の家並みとともに鍛冶工房跡が出土した」と聞いて、
京都市街地からの鍛冶工房に興味津々。
発掘現場の見学並びに開催された現地説明会に参加

初めて知る中世の町屋がつつく家並み　町屋の裏のごみ処理の土坑群にびっくり。
町屋裏庭の土坑から鍛冶関連遺物の出土により、鍛冶工房の存在が推察されるが、
鍛冶炉跡は不明であり、生産された製品もよくわからず、さらなる検討が必要に思
えた。でも　初めて見る京都市街地での鍛冶工房の可能性に満足。
ずぐ向かいの重文の龍谷大本部や国宝西本願寺唐門を見学　西本願寺の境内
御影堂・阿弥陀堂にもお参りして帰ってきました。

発掘調査地全景　南東から　2016.7.20.撮影

発掘調査現場展示パネルより

龍谷大大宮キャンパス　平安京左京七条二坊五町-東市跡- 発掘調査

発掘調査現地説明会　2016.10.16.

七條大路に面した鎌倉時代の商業職人町の家並み　奥には鍛冶工房跡も出土

発掘調査地全景　南東から　2016.7.20.撮影

発掘調査現場展示パネルより